



1924年(大正十三年)八月十八日(月)先生の日記より

少く山に親まんとて、或る若き友にイ半はいて君羊馬屋利根郡清水越の麓湯梅曾を指し出發した。澁川より沼田まで、利根川の初岸を經て汽車の走る所は爽快であつた。沼田より目的地までの乗合自動車は決して快いものではなかつた。湯梅曾は明治廿一年、余が新潟なる舊北越学館做教頭として招かれて赴任する當時一泊した所である。今は昔の跡なく、只雪室なる温泉の到る所に湧出するのみである。山は深く、風は涼く、遠路を思ひ來る甲斐のちる所である。

